



安倍政治終わりにしよう！

“もう黙っとれん”

西濃アクシヨンの会

音楽を通して反戦や護憲を呼びかける「西濃アクシヨンの会」が4月21日、大垣駅北口で開かれました。

2015年の安保関連法の成立を前に結成され、安倍政権に抗議の声を上げている市民団体「もう黙っとれん西濃アクシヨンの実行委員会」が主催。西濃地方で活動する、よさこいチーム「総踊連合」神舞(かんまい)による躍動感あふれる踊りでオープニング。実行委員長長の山田秀樹弁護士が「アベ政治を許さない」たたかいを粘り強く続けた経過を述べ、「民主主義や国民生活を破壊してきた安倍政権は今、大きく揺らいでいる。平和や自由が守られる社会へ、歌

や音楽で思いを届けよう」と訴えました。

大垣のフォークグループ「伊舞木座(いぶきざ)」による「もの言う自由を」、年金者組合「うたごえ青空」による「心つなごう」、真宗大谷派9条の会大垣による「反戦僧侶」のギター演奏、など幅広い団体、個人が平和憲法9条を守り抜く熱い思いを披露しました。

西濃地域の共産党議員や党派を超えた市議・町議が多数参加しました。海津市からも市民や複数の市議が参加しました。友人と見入っていた女性には、「安倍首相は逃げばかりで責任感がまったくない。野党は結束して安倍政治をやめさせてほしい」と語りました。

松岡議員 地元で訴える

4月21日の「西濃アクシヨンの会」に参加した松岡ただし市議は、地元海津市でも「黙っとれん」と、22日にヨシヅヤ海津平田店前や駒野駅前などで、街頭演説を行なっていました。

松岡市議は、森友・加計問題や自衛隊の日報隠ぺい問題などを取り上げ、お友達優遇や自己保身といったこの政権の体質が根本問題であり、日本共産党は安倍内閣の総辞職を求めていくなどと訴えました。

また、憲法9条を変えないのではなく、日本国憲法の崇高な理想に現実を近づけるための努力をすべきだと訴え、3000万人署名への協力を呼びかけました。通行中の車から、クラクションを鳴らしての応援がありました。

高すぎる国保税の引き下げを！

第1回定例会が、2月26日から3月20日まで開かれました。松岡議員は国民健康保険と子どもの貧困対策、児童発達支援事業について一般質問をしました。内容をお知らせします。



平成28年度、海津市の平均国保税は、世帯・個人とも県下21市で最も高く(表参照)、高すぎる国保税を引き下げするため、一般会計からの繰入を求めました。国保税は、保険料負担を考慮して市町村が独自に税率を決められるからです。

これに対して、市長は国保税引き下げのために一般会計からの繰入は行わないと答弁しました。国保は、退職後を考えれば誰もが通る道であり、社会保障の一環です。高すぎる国保税を何とかしてほしいとの市民の声も多くあり、今後も国保税

の引き下げを求めています。

国民健康保険税の比較(世帯あたり)

市名	年度	平均保険税	海津市(H28)との差額
海津市	H28	233,600円	—
	H19	178,010円	55,590円
大垣市	H28	192,803円	40,797円
飛騨市	H28	123,764円	109,836円

子どもの貧困対策を

子どもの貧困率は全国で13.9%、海津市に当てはめると約640人と少なくありません。

そこで、松岡議員が海津市での子どもの貧困率調査を求めたところ、市長は、専門的技術を要す

るので、当面は学校と行政の連絡を密にして対応したいと答弁しました。また、実態調査については、県が実施予定につき、参考にして検討課題とすることや、対応する部署の創設を求めている、いまある子どもや貧困を担当する部署が連携して見守るとの答弁でした。

小学生の就学援助 入学準備金が 入学前に支給実現へ

小学生に対する就学援助の入学準備金に関し、入学前に前倒しをすることを求めたところ、平成31年度から準備しているとの答弁で、共産党前議員のころからの再三の要望が、実現することとなります。

そのほか、児童発達支援事業所「みらい」についても現場の要望を聞き取り、質問をしました。

松岡議員の議案に対する対応

全39議案のうち、松岡議員が反対したのは下記の4議案で、その他は全会一致で可決しました。

松岡議員は、国保税引き下げのために一般会計からの法定外繰入を求めて、反対討論に立ちました。

一般会計予算では、駒野工業団地の関連予算約1億6千万円にも反対しました。

また、特に低所得者の方の負担軽減を求めて介護保険料値上げにも反対しました。

- 一般会計予算…(反対3、賛成11)
- 国民健康保険特別会計予算…(反対3、賛成11)
- 介護保険料の値上げに関する条例改正…(反対3、賛成11)
- 南濃斎苑の廃止に伴う条例改正…(反対3、賛成11)

デマンドバスのさらなる充実を

高齢化が進む本市において、今後車を運転できない高齢者が増えることが予想されます。また、昨年実施してみなさんにご協力いただいた市民アンケートにおいても、公共交通機関の充実を要望される方が全体の3割を占めるなど、みなさんの関心の高さをうかがわせます。こうしたことから、公共交通機関の充実に向けた取り組みがますます重要であると考えられます。そのなかでも特に、2015年10月から運行が開始されたデマンドバスは、身近な市民の足としてさらなる充実が求められているのではないのでしょうか。

定時定路線バスの利用者が減っている一方で、デマンドバスの利用者数は微増しており、特に海津温泉、松山グリーンハイツ、医師会病院への利用が多いことが分かっています。市民のみなさんからは、「デマンドバスの土日運行を」という声もあり、より使いやすいものへと改善・工夫していくことが必要です。皆さんの生の声をお聞かせください。



海津市のデマンドバス

春休みに息子2人を連れて、木曾三川公園へ行ってきました。ちょうどチューリップ祭が開催されていて、多くの来場者でにぎわっていました。私は、事前に予約して初めてデマンドバスを利用しました。運転手さんも気さくな方でしたし、北側の駐車場が満車だったので車じゃなくて良かったなあと思いました。タクシーに近い感覚で利用できるのも、もっといろんな所への移動に活用できないかと思えます。

松岡ただし
親育ち日記

パパと息子の春休み